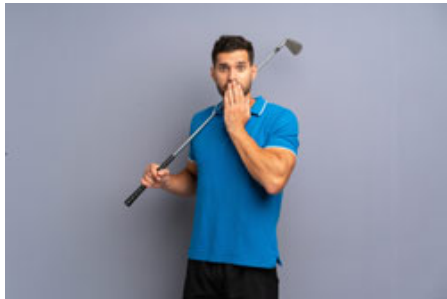


ゴルフエッセー「耳と耳のあいだ」(第55回)

主体的に動く「自立型ビジネスパーソン」の育て方

2020.02.18



ゴルフ歴は長いものの、ラウンド中のクラブ選択やコースの攻め方を自分では決められず、キャディーさんや同伴している先輩ゴルファーの指示がないと判断できないゴルファーがいるようです。そのようなプレイスタイルでは、ゴルフの面白さを半分も感じられないのではと思います。

自分で考え、判断し、実行する、といったプロセスで、試行錯誤をしながらベストな結果をめざす。それがゴルフというスポーツの醍醐味です。人に頼るのではなく主体的に行動できるようになると、ゴルフの面白さは格段に上がります。今回は主体的に動くこと＝「自立」をどのようにサポートするかについて、ゴルフを通じて考えます。

至れり尽くせりのアドバイスは自立を妨げる

私が主管するゴルフスクールに半年ほど前に入会された年配女性のAさん。その方はゴルフ歴が10年以上のベテランで、月1回程度のペースでラウンドされています。あまり飛距離は出ないものの、レッスンではそこそこのショットが打っています。ラウンド経験も十分ということでスクールが主催するコンペに参加していただいたのですが、その際のAさんの様子に驚いてしまいました。

私はコンペの際、時間の許す限りラウンドに同行し、各組のプレーの進行を促しながら、コース戦略など気付いたことをアドバイスするようにしています。Aさんの組に同行したときのことで、Aさんは私の姿を見るや否や、「ここは何番で打てばいいですか?」、「ここはどうやって打てばいいですか?」、「次は私が打つ番ですか?」と、ありとあらゆる質問をされるのです。ゴルフ歴が10年以上で、ある程度のラウンド経験がある方とはとても思えません。聞けば、私が同行してなかったときは他の同伴プレーヤーに都度尋ねていたそうです。

かつてAさんは、前述の通り、月1回くらいのペースでご主人と共にホームコース(会員権を持っていて自身が所属するゴルフ場)をラウンドされていたそうです。そのコースはキャディー教育がしっかりしていて、プレーヤーの飛距離や腕前を把握し、プレーヤーから「何番」と言われる前に使用するクラブをお渡しするサービスが徹底されているコースだったのです。

それに慣れてしまったAさんは、かなりラウンドを重ねているにもかかわらず、使用するクラブやコースの攻略法を自分で考え、自分で判断し、実行するという経験を積む機会がなかったのです。キャディーさんが近くにいる場合はご主人が使用するクラブや打つ方向などを指示し、その指示通りに打つというゴルフを長年されてきた方でした。それでは、ゴルファーとして自立できてないのは当たり前です。

ゴルフは自己責任のスポーツです。野球やテニス、時には対戦相手次第の部分がありますが、ゴルフはすべて「自分のせい」です。故に、自分で考え、自分で判断し、自分で実行し、ベストな結果をめざすことがゴルフの醍醐味です。キャディーさんが、プレーヤーに言われる前に最適なクラブを差し出す「至れり尽くせり」のサービス。プレーヤーとキャディーさんが以心伝心の関係で、プレーヤーが自分で考えた結果、使いたいと考えたクラブと同じクラブを口で伝えなくとも理解できるというなら素晴らしいと思います。しかし、使用クラブをキャディーさんが判断して、プレーヤーが自分で考えることを放棄してラウンドをしているなら、一見親切なサービスのように見えるこの行為は、逆にゴルファーからゴルフ本来の楽しみをも奪っているのではないかと思うのです。

ラウンドレッスン2つの目的… 続きを読む